

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200584		
法人名	社会福祉法人登米市社会福祉協議会		
事業所名	認知症高齢者グループホームほほえみ	ユニット名	
所在地	宮城県登米市石越町南郷字新石沢前47番地3		
自己評価作成日	平成30年 9月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな場所にホームがあり、天気の良い日にはホームの周りを散歩したり日なたっぼこしたりとのんびりと生活しております。同じ敷地内の特養やデイサービスとも交流があり、お互いに遊びに行ったり来たりしております。地域の方にはボランティア(傾聴、歌、踊り、畑仕事等)としてお手伝いをいただいております。こちらから地域のお祭りや行事に出かけることもあります。GHで行事を行うときにはご家族や地域の方にも参加して頂き自宅にいた時の延長で生活して頂けるように職員全員努力しております。のんびり、ゆったりしながら楽しみのある生活が送れるように個々の入居者の方々の希望を取り得れ毎日生活しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR石越駅から東方面で、田園の広がる環境の良い所である。開設13年、同敷地内に、特養施設「風の路」やデイサービスがあり、地域福祉の拠点となっている。市の委託事業である高齢者の短期宿泊や一時預かりを行うサービス「家族支援レスパイト事業」に取り組んでいる。地域のボランティアとの交流が積極的である。介護スタッフの献身的なケアで入居者の改善につながり、見違えるほど元気になった事例で家族の評価は高い。桜や蓮の花等々の観賞や、季節行事の食事会等、入居者の楽しみが溢れている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成30年10月3日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 GHほほえみ)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念の検討を行い昨年度の理念に「私たちは家族や地域の力を借りながら、地域との交流を大切に楽しい時間をつくります」を追加しました。	理念を振り返り、職員と話し合い、地域密着サービスの意義を考え、地域生活の継続をうたった理念になった。「私たちは家族や地域の力を借りながら、地域との交流を大切に楽しい時間をつくります」を追加した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会や地域運営推進会議に地域の方々のご参加をお願いし交流を続けております。	区長の協力をもらい、地域の交流を続けている。敬老会に参加したり、畑の野菜の苗をもらい収穫した。法人施設のバザーに手芸(毛糸タワシ)を出品した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護110番」の窓口を設けて相談を受け付けており、要望があれば「認知症」について出前講座もおこなっております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、福祉事務所、地域包括センター、地域の方々、入居者やご家族代表の方にご参加いただき意見交換を行っております。	市の担当課、包括支援センター、社協石越支所が参加している。認知症自立判定基準の説明や、ヒヤリハット事例の確認、熱中症対策(エアコン、暖簾、網戸)等、具体的な意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年6回の地域運営推進会議を利用して相談を行ったり、市の委託事業「介護家族支援レスパイト事業」の受け入れも行き良好な関係を築いております。	市の委託事業「介護家族支援レスパイト事業」を受入れている。今年度は2名を受け入れ、家族支援をした。市から勉強会の案内やセミナー「食べる幸せ」の講演があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室、居間の施錠は防犯のため夜間のみとし、昼間はすべての窓や入り口を開錠しております。ベットの身体拘束もおこなっておりません。	日常のケアの中で、禁止行為の対象にならないかを職員同士で確認し合っている。ベッド柵やセンサー等はない。玄関や窓、ドアは開放し、施錠は夜間だけである。敷地内のデイサービスや特養ホームの見守り協力がある。交番との連携もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスやミーティング時に自分たちのケアの見直しを行い、身体的にも精神的にも虐待が行われていないことを確認しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当される方はいらっしゃいませんが、前に保佐人のついておられる方が入居されたことがあり、ミーティング等で話し合いを行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成担当者の2人で対応しており、何度か自宅にお邪魔して入居者の方や家族に対して十分な説明を行い理解し、納得していただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議にご家族代表者の方も参加して頂いており、そこで出された意見や要望を運営に反映させて頂いている。ご家族が面会等で来所された時には情報交換を行い、意見や要望を伺うようにしております。	運営推進会議に家族代表も参加し、意見要望は運営に反映している。会議の中から室温管理や服薬管理等を再確認した。入居者の部屋替えの要望が有り、応じた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケアカンファレンスやミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けている。GH内で解決できないことは本部に相談し解決を図っている。	職員の意見は、毎月のケアカンファレンスとミーティングを開催し、意見や要望を聞いている。夏場の対策に非常口の網戸の取り付けと部屋入口の前の暖簾を下げた。夜勤手当の増額が認められた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議等会議に会長も参加され私たちの意見を聞いて下さいます。また、時々全ての事業所を廻り職員の意見を聞いて下さいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会がある時には声掛けを行い参加を進めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県のGH協や登米市の介護保険事業者連絡協議会入会しており、他の入居施設との交流や情報交換の機会があり、自分たちのサービスの質の向上に繋げております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から何度か自宅に伺い本人に納得できるようにお話をしたり、入居後には気軽にお話できるように個別でお話できる時間を作っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から何度か自宅に伺いご家族の要望に耳を傾け、入居後もGHIに面会にいられた時に情報交換を行い、信頼関係づくりを行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所する前の段階で家族の要望等をお聞きし、自分たちの出来る事、できないことを話し合い入居者の方にとってより良いケアを行うために他のサービスや社協内の他の施設との協力体制をとってケアを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様も職員も同じ家族の一員と考え入居者の皆様にも出来る範囲での役割(茶碗ふき、テーブルふき、縫物、就寝準備等)をもっていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にGHの行事に参加して頂く事や家族での外出を支援しております。また、入居者様の日々の様子を毎月お便りでご家族にお知らせしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた地域の行事に参加したり、GHの行事に地域の方をお呼びすることで交流が続くように支援しております。	長根地区の「いきいき祭り」「まるごと石越祭り」等地域の行事に参加している。知人の来訪や友人との外出があり、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方一人ひとりの趣味や興味のあることを把握したり、耳の遠い方には職員が間に入りお互いの意思疎通がうまくいくように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設への入所のため退所される方のご家族にはいつでも相談をして下さいとお話しし、入院で退所される方については何度か病院に様子を見に行きご家族とお話をさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に本人の希望や要望を聞き、ケアカンファレンスに本人の希望を反映させたプランをたてております。	1対1の散歩、日向ぼっこ、入浴時等に思いを探っている。電話や手紙のこと、ドライブしたい、飴を買いに行きたい、家の様子が見たい等に対応した。七夕短冊には家に帰りたい、釣りに行きたい等が記されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族から情報を収集し、入居後には個別に話を聞く機会を多く持ちこれまでの生活環境や暮らし方の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方その方各々の一日の過ごし方を把握し、記録にし全職員で情報を共有し現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、主治医の意見を聞き、職員全員で話し合いケアプランを作成している。3か月に一度見直しも行っている。	介護計画に基づくケアにより、オムツの改善や尻の皮膚病の完治、食事がとれず衰弱していた方が快方に向かうなど、モニタリングすることで日常のケアが見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別のケース記録や日誌に記録し職員全員で情報を共有することにより、実践や介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ敷地内にデイサービスや特養があるためお互いの交流を行いサービスの多様化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にボランティア(傾聴・畑仕事)に来ていただいたり、地域の行事(敬老会・お祭り)に参加しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望でGHIに入所前からの主治医に入所後の通院される方にはGHでの情報を提供し、GHの協力医に通院されている方にはこちらで対応しております。	協力医は近くの診療所や医院である。口腔ケアは歯科医の訪問がある。かかりつけ医は、家族が同行している。結果は記録し保存している。現在かかりつけ医に4名、協力医に5名の人がかかっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHIに看護職員は勤務しておりませんが、入居者に変化がある時には隣接している特養やデイサービスの看護師に相談し、すぐに病院受診を行い入居者の方が適切な看護を受けられるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院した際には、入居者の方の情報を病院に提供し、入院時には出来る限り面会に行き、その都度病院関係者との情報交換を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医との24時間医療連携が困難の為看取りは行っておりません。入居者の方が重度化した場合には本人、家族との話し合いを段階的に行い特養、老健等への入所、医療機関への入院を支援しております。	契約時点で看取りは行わない方針で、重度化した場合の方法は家族に説明をしている。文書化された同意書も完成し、契約時に同意書を頂く体制になっている。この事については地域包括から助言を受けた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは全職員が理解しており、訓練も定期的に行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行っております。昼間だけでなく夜間想定も行い、火災だけでなく地震や水害等の避難訓練も行っております。	年2回の避難訓練を実施している。迫川の氾濫による災害時は、高台の公民館が指定避難所になっている。災害時の、他の施設との協力体制(役割分担を含)がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方個々に合わせた声掛けを行い、排泄時、入浴時には特にその方の誇りやプライバシーを損ねないように気を付けて対応しております。	苗字にさん付けで呼んでいる。入浴時の着替はそっと入れ替えている。就寝時はテレビの画面だけになっている方がいる。面会時は居室でゆっくり話す。電話の時は側から離れる等配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方と職員間で日ごろから信頼関係を築く努力をしており、入居者の方がなんでも話せる雰囲気づくりを心かけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々個々の生活のリズムを把握し、その方のペースで穏やかにのんびりと生活して頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気持ちの良い毎日を過ごすために、自分で洋服を選べない方や整容ができない方のお手伝いを行い、季節に合った身だしなみやおしゃれが出来るように支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特養の栄養士が作成した献立を参考に入居者の方々の希望や季節にあった食事を提供しております。誕生日や行事の時には特別メニューをお出ししており、食事の準備や後片付けも出来る範囲で入居者の方と一緒にしております。	土用の丑の日のウナギ丼が評判になった。花見の弁当、行事食の赤飯、寿司、誕生会のチラシ寿し、夏祭りの焼きそばやたこ焼きが人気がある。食事は栄養士が献立表を作成、バランスのとれたメニューである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の方個々に合わせた食事の摂取量や水分摂取量に気をつけ十分な栄養や水分が取れるように支援しています。また、モーニングコーヒーを希望される方にはコーヒーをお茶を希望される方にはお茶を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや入れ歯の洗浄は自分で出来る方は見守りで、介助が必要な方は職員がお手伝いをさせていただいております。又、歯科医による口腔ケアも行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し個々の排泄パターンを把握し、職員が声掛けや誘導を行い自立に向けた支援を行っております。その結果2名の方がリハパンから綿パンツに変更になりました。	個々の排泄パターンを把握して声掛けと誘導でトイレでの自立排泄を支援している。これまでリハパンから綿パンツに改善された方が2名いる。現在は、リハパン4名、綿パンツ3名、併用2名となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のために朝食時には麦ごはんや毎日乳製品を摂取して頂いている他に適度な運動や水分摂取を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は入居者の方の希望をお聞きして行っております。入浴を拒否される方にも声掛けや説得を行い納得して入浴して頂けるように支援を行っております。	週平均2～3回、本人の希望する日時に入浴している。拒否される人には、時間を置き、人を替え、声を掛ける。肩まで浸かって満足している。ワンツーマンで思いを聞くチャンスである。家に帰りたいなあ～等々である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は本人の意思に任せております。お昼寝も本人の習慣として定着している方のみが行っております。就寝時には居室の温度調整を行い気持ちよく休めるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬管理表で個々の服薬について把握しており、服薬時には手渡しや介助で飲み込むまでの見守りを行い服薬を管理しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味(折り紙、塗り絵、縫物等)や炊事や後片付けの手伝いを行ったり、自宅と同じように居室にお好きなお菓子等を置き食べたりできるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って散歩やドライブ、買い物等に出かけております。家族との外出には車いすの貸し出しや地域での催しに出かけるときには送迎を行っております。	一人ひとりの能力や希望に応じて、廊下の行ったり来たりを含め、東屋のある公園で、日向ぼっこを兼ねて散歩をしている。週2回の買い物、ドライブ(街や自宅の様子見、伊豆沼、長沼等)、家族との外出や外泊等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いをお預かりしており、外出時や買い物に出かけたときには、本人がお金をもって買い物ができるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を掛けたいときには、自分で電話番号を押せる方には電話をお貸しし、自分で電話番号を押せない方はこちらで番号を押し受話器を手渡ししております。手紙を出したいときには職員がお手伝いをして投函しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清掃をこまめに行い広い窓からは光や風を適度に取り入れ、エアコンでの温度調節もこまめに行っております。又、玄関や居間には季節を感じられるよう工夫しております。	猛暑が続き、ホームは熱中症対策に配慮した。廊下の両端の非常口に網戸を設置し風通しを良くし、各居室の入り口には暖簾を下げ廊下の涼しい風を入れた。外出も控えめに、エアコンの管理を徹底し、無事に乗り切ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間での席は気の合った方々で座って頂きたい、廊下や玄関に椅子を置き気の合った方と話をしたり、一人で過ごしたいときにはひとりで過ごせる工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具等の持ち込みをお願いしたり、カレンダーや家族の写真等飾りより自宅に近い空間に近づける工夫を行っております。	各居室の入り口には色とりどりの暖簾が下がり、趣味の折り紙で作った小さな箱の鈴が下がっている。使い慣れた机や椅子、タンスが持ち込まれ、家族の写真や自分で作った塗り絵カレンダーが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっております。廊下には手すりも設置され一人で歩きやすいようになっております。トイレの表示は大きくわかりやすく工夫し居室の前には名札を下げ自分の居室がわかりやすいように工夫しております。		